専門学校　文化デザイナー学院

2023 年度　自己点検･自己評価報告書

2024 年 6 月

学校法人リリー文化学園

専門学校　文化デザイナー学院

20240610

2023年度　自己点検･自己評価について

学校法人リリー文化学園　専門学校　文化デザイナー学院は、昭和24年に創設者である大久保久子氏が水戸市藤沢小路344番地にリリー洋裁研究所を開設したのが始まりになります。その後、和裁・洋裁、あるいはファッションの学校として発展してまいりました。現在のリリー文化学園は、専門学校2校、小学校1校、幼稚園2園、保育園5園、関連会社としてスポーツ施設や広告プロダクションなどを展開しております。

専門学校文化デザイナー学院はその中でも、リリー洋裁研究所の流れを継ぐものであり一番古い歴史を有しています。現在は「産業の中のデザイン分野」に特化したカリキュラムを持っています。広告プロモーションデザイン学科・ファッションビジネス学科・建築設計デザイン学科という3学科で構成されております。

本校の教育理念は、「教育とは愛である　教育とはアイデアである　いつもあたたかくいつもあたらしく」という指針を掲げています。また、デザインを通した人間教育の実践として「文化デザインマインド」を掲げています。時代の成長と変化を楽しめる「WILL」という想いを持って地域社会と向き合える「主体性」というハートを持ってデザインする事　これが、私達の「文化デザインマインド」です。

大きな特徴としては、平成7年から、産学官の連携に力を入れており、授業の中に実際のクライアント＝お客様（デザインの依頼人）を想定する授業に取り組んでおります。茨城県内の市町村や企業などからのプロジェクトの依頼も多くなり、現在は1年生から3年生まで全ての学年で産学官連携事業を実施し少しでも茨城県、地域の為に貢献出来ればと考えております。これらは、本校の特徴でもある「職業実践主義」に重きを置くものであり、デザインのプロセスである、取材（情報収集）→企画（情報分析と仮説）→制作（デザイン力の高い）→表現（プレゼンテーション）を内包するものです。文化デザイナー学院は、職業実践教育として、これらの4ステップに関わる技術・知識を習得することと、国家資格や認定資格等の取得、又社会のニーズに合った人間力を育てる教育を目指します。

本書類は2023年度の自己点検･自己評価をまとめるものとし、ここに開示致します。各項目の評価の基準についましては、平成25年3月文部科学省　生涯学習政策局から示されました「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠しております。よって、評価も4段階評価（4適切　3ほぼ適切　2ほぼ不適切　　1不適切）を採用させて頂きました。

2024年6月
学校法人　リリー文化学園
専門学校　文化デザイナー学院
学校長
自己点検・自己評価委員長
荒井　真次

自己点検･自己評価委員会

委員長	荒井　真次　（学　校　長）
委員	渡邉　忠　　（本　部　長）
	川上　大輔　（教務部長）
	丸岡　修二　（専任教員）
	佐藤　正和　（兼任教員･卒業生･デザイナー）
オブザーバー	大久保博之　（理事長）

目次

評価基準1　教育理念・目標　5p
Ⅰ教育理念　Ⅱ教育目標　Ⅲ教育方針　Ⅳ年度方針
評価＆改善

評価基準2　学校運営　8p
Ⅰ学校運営の方針　Ⅱ授業計画ついて　Ⅲ学校組織のありかた
Ⅳ意志決定のプロセス　Ⅴ業務の効率化
評価＆改善

評価基準3　教育活動　11p
Ⅰ学科編成における全学科と通しての共通な特徴
Ⅱ各学科の概要
Ⅲカリキュラムについて
Ⅳ単位認定・成績評価の考え方ついて
Ⅴ資格取得・国家資格に向けた授業について
Ⅵ業界との協力体制
Ⅶ産学官共同授業について
Ⅷ業界からの授業成果に関する協力について
Ⅸ修了制作展　作品の展示について
Ⅹインターンシップ
評価＆改善

評価基準4　学修成果　28p
Ⅰ就職指導の全体方針について　Ⅱ就職目標設定と2021年度報告
Ⅲ就職に対する本校の特徴　Ⅳ就職指導体制
評価＆改善

評価基準5　学生支援　35p
Ⅰ学生支援体制
評価＆改善

評価基準6　教育環境　38p
Ⅰ施設･設備状況について　Ⅱ防災･災害に対する対応について
Ⅲ保険への加入について
評価＆改善

評価基準7　学生の受け入れ募集　41p
Ⅰ募集の動き　Ⅱ広報媒体　Ⅲ募集体制　Ⅳ学費について
評価＆改善

評価基準8　財務　44p
評価＆改善

評価基準9　法令等の遵守　45p
Ⅰ個人情報保護について　Ⅱ学校自己点検･自己評価について
Ⅲ学生作品と著作権の問題
評価＆改善

評価基準10　社会貢献･地域貢献　47p
Ⅰ産学官連携の成果
Ⅱ産学官連携の一覧
評価＆改善

評価基準11　国際交流　54p
Ⅰサンフランシスコ　Academy Art of University　との連携
Ⅱ今後の国際交流について

評価基準1　教育理念・目標

Ⅰ教育理念

教育とは愛である　教育とはアイデアである
いつもあたたかく　いつもあたらしく

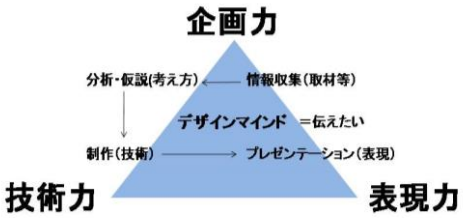
Ⅱ教育方針

私たちの「文化デザインマインド」とは・・・
時代の成長と変化を楽しめる「WILL」という想いを持って
地域社会と向き合える「主体性」というハートを持ってデザインする事
（各教室掲示）

本校の教育方針は、教育理念に則り、県内唯一のデザイン学校として、感性、創造性、表現力に富み、自らのデザイン性を追求すると同時に、デザインの社会性を理解し、学生がデザインプロセスにおける技術を効果的に学ぶ事にある。本校の目指す人材育成とは、生活者が必要とするデザインを、実践的なプロセスによってより専門的に提案し表現し続ける事が出来る人材の育成を目標とする。デザインを通して仕事の喜びを感じるデザイナーを育成する。

Ⅲ教育目標

1、職業実践主義
2、プロセス・表現主義
3、デザインマインド教育



本校の教育目標は、1、「職業実践主義」に基づき実際の職業を目指すためのカリキュラムや授業を構成し、2、「プロセス・表現主義」として、デザインプロセスである情報収集した事象を分析し、企画を考え、使う人・見る人にわかりやすく喜ばれるデザインを制作する事を目指すとともに、それを分かりやすく説明出来るように「プレゼンテーション」での表現技術を習得し、3、「デザインマインド教育」として、ものづくりの精神を大事にし「良いものをつくるには、良い人間をつくる」という精神を教育方針とする。

Ⅳ年度方針

本校の年度方針は毎年 3 月に次年度の運営方針・教育計画を発表し、学園全体会議・教務会議・講師会議等で方針の徹底を図っている。

2023 年度学校方針

18 歳人口減少という社会の課題にリリーらしく取り組みます

2023 年度事業計画

①デザイン学校として修了制作展を進化させ、内容をより実践的に行い、学校の魅力を上げる

②分野の人気低迷に対する対策として、建築士特待生制度を設立。更に入学生を増加させる

③東京の学校にも引けを取らない、地方の学校だから出来る取り組みにチャレンジして、選ばれる学校になる

評価基準1　教育理念・目的

Ⅰ教育理念
Ⅱ教育目標
Ⅲ教育方針
Ⅳ年度目標

	評価項目	学校自己評価			
		4･･･適切	3･･･ほぼ適切	2･･･やや不適切	1･･･不適切
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
2	学校における職業教育の特色は明確か	④	3	2	1
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
4	学校の理念・目的・人材像・特色・将来構想などが学生保護者に周知されているか	④	3	2	1
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか。	④	3	2	1

課題
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか

今後の改善方策
③国の修学支援制度の拡充が2024年度より正式にスタートすることとなり、新たに理工系学生を対象とした第Ⅳ区分が設けられた。事前のアンケートでは本校の建築設計デザイン学科が工業分野に該当することを回答したが、専門課程の分野に基づく判断のため、現在認可をとっている産業デザイン専門課程は非該当との判断だった。そこで、県と相談の上、学則を変更し分野を工業変更することとした。また、他学科に関しても専門学校の8つの分野に該当する形が望ましいとの判断から文化・教養分野に変更することとした。

評価基準2　学校運営

Ⅰ学校運営の方針（教職員の精神）

a,一人ひとりを大事にする教育

　学校の中心にあるものが学生であり、学校を構成するのは基本的に教職員である。そして、学生が満足できる学校を実現するために、常に教職員は、学生との対話を大切にし、個人面接や個人指導に重きを置き、一人ひとりを大切にする教育を行うものとする。

b,デザインを通した人間性･社会性の教育

　デザインとは美術や芸術とは違い、産業的な職業として成立するものである。コミュニケーション能力の大切さを学び、社会的に貢献できる人材を目指せるように、キャリア指導に力点を置く事とする。

c,デザインマインド教育と職業実践教育の連動

　積極的に「問題解決型の課題」を地域社会や企業と連動して取り組むことは、学生がデザイナーという職業のプロセスを体験するのに大変効果的であり、常にデザインを通して問題の解決を考え、同時に教育方針である「文化デザインマインド」を学ぶ事が重要である。

Ⅱ事業計画ついて

　事業計画については、中長期ビジョンと短期ビジョンに基づき、各学科の年度事業計画を決定し運営実行している。

その策定については、学校長を中心に教務部長や教務主任等、各学科のコーディネーターが意見調整の上決定している。重要な決定事項は全てディレクター会議（主任以上が出席）または最高幹部会議（学園幹部）により決定する。

Ⅲ学校組織のありかた　（教職員組織について）

　学校の構成は、大きくは①学生②兼任教員③教務職員になっている。その中で核になり中心的役割を果たすのが「教務職員」であり、学校運営の成否を左右するものである。教育プロセスを見据えた人材育成が必要である。

　教務職員が、運営・企画・事務・就職をセクションで分け、業務を行う。よりプロフェッショナルな指導を行うことと、学生一人ひとりのサポートを大切に指導できる面が、学習成果に大きな効果をもたらす事が出来る。組織のあり方（運営面）を考えても効率的に業務が進む事が可能となり、教務職員それぞれの個性を活かし業務にあたる事が出来る。

Ⅳ意志決定のプロセス（教務部意思決定プロセス）

常に学生からのアンケート（学生満足度アンケート）や意見に対して、現場に問題点を提示すると同時に、現場からも問題点がフィードバックされてくるという相互プロセスの中で学校の意思決定を図る。教務部内の意思決定に関しては、PDCAサイクルで毎年の改善を図る。

また、講師会議や各種専門業界からのご指摘や意見も踏まえた上で、重要な事項（学校の運営に関わるような案件）に関しては、ディレクター会議（主任以上が出席）または意思決定会議として最高幹部会議（学園幹部）により決定する。

Ⅴ業務の効率化

2019年より導入した学生管理システムは、カスタマイズを行いより効率的に利用できるツールに改良を行った。2020年度より高校訪問や進路ガイダンスの記録を電子化して管理を始めた。紙媒体での管理から電子化することで、外出先で職員がインターネットを通して情報を確認し、取得できる体制を整えて訪問の効率を図った。2021年度もすべての記録が電子化されて、効率化とペーパレス化につながっている。今後の可能性としては、学生情報の管理や成績表など書類作成に時間のかかる事務作業などの効率化を検討していきたい。

また、教務職員の業務効率化の取り組みについても継続した成果が得られている。①スケジュール管理システムについては、運用が定着した。2020年度からは終礼の業務連絡ツールとして利用し、これまで時間がかかっていた教務部内での報告・連絡・相談の時間の短縮につながった。また、業務の見える化を進めていった結果、煩雑化してしまい、経験の浅い職員が使いこなせなくなってしまった。そこで、簡素化するなどの見直しを行った。②LINE＠を利用した学生連絡を行うことや課題データの提出にクラウドを利用することで業務の効率化につながっている。③電話とメールの対応時間を18：00までとすることで突発的な夜間業務が大きく削減された。また、④コロナ禍においてはこれまで対面で実施していた会議をオンラインで行い、滞りなく業務を進めることができた。学生指導の面でも同様にオンラインにて講演会を実施した。2022年度も年間を通して定刻退勤ができた。2023年は教務事務の負担となっている、学生の出欠管理の電子化に取り組み、出席管理アプリを導入した。これまで点呼と手書きで出欠を確認していたが、ビーコンを使いスマートフォンによる出席登録と出欠集計が自動化された。2024年度以降もシステムの改善点を業者と相談しながら利用を継続する予定である。

評価基準2　学校運営

Ⅰ 学校運営の方針
Ⅱ 授業計画
Ⅲ 学校組織のありかた
Ⅳ 意志決定のプロセス
Ⅴ 業務の効率化

	評価項目	学校自己評価 4･･･適切　3･･･ほぼ適切　2･･･やや不適切　1･･･不適切
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④　3　2　1
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④　3　2　1
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④　3　2　1
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	④　3　2　1
5	教務･財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④　3　2　1
6	業界や地域社会に対するコンプライアンスが整備されているか	④　3　2　1
7	教育活動等に関する情報公開が適切にされている	④　3　2　1
8	情報システム化等による業務の効率化が図られている	④　3　2　1

課題
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
④人事、給与に関する規程等は整備されているか
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られている

今後の改善方策
③④2022年度も改定した就業規則･諸規定を運用し常勤職員、非常勤講師ともに労務が適正に管理された。常勤の教務職員についてもほぼ定刻退勤を実行でき、代休取得も計画通りに進んだ。
⑧2023年度後期より、学生の出席管理を電子化した。従前では点呼の上、出席簿に手書きしていた方法から、ビーコンを使いスマートフォンのアプリによる出席の登録と集計ができるようになった。改善点を修正しながら2024年度も運用を継続することとしている。

評価基準3　教育活動

Ⅰ学科編成における全学科を通しての共通な特徴

a,専門学校に入学する者は、それぞれに好きな事、学びたい事がある。学ぶ体制としても、意欲的に学ぶ姿勢は学習成果にも繋がる。各専門分野の職業に必要な基礎力をつけるために1年目を基礎固めとし、2年目が基礎力の応用、3年目がデザイン実践力をつける3年間のステップとする。

b,考える事、作る事、表現する事の基本は「手が動く」ということが重要であり、基礎の時点では「手を動かす」ことを十分に盛り込む構成とする。また、手を動かす演習においては、デザインの基礎を体に染み込ませる意味で重要であり、理論科目との連動で真の理解力が増す構成とする。

c,全学科において、地域社会や企業と連動して取り組む課題は、学生がデザイナーという職業のプロセスを体験するのに大変効果的であり、常にデザインを通して問題の解決を考え、同時にこれからの時代に地域社会と向き合う「主体性」を育むプログラムを用意するものとする。

Ⅱ各学科の概要

a,広告プロモーションデザイン学科　（昼3年）

　オペレーターとしてのグラフィックデザイナーではなくクライアントの要望を聞き、ゼロから作り、提案まで出来るデザイナーを育成しようと考えている。1年次は、デッサン、平面構成、色彩理論、発想力、コンピュータリテラシー等を中心に基礎を固め、2年次は写真やイラストレーションやタイポグラフフィー（文字）を素材としたグラフィックデザインをまとめて表現（プレゼンテーション）出来る技術を習得する。また、3年次は、地域社会との連携の中で、自らのテーマによってデザインを提案していくという能動的な活動への評価を重要視し、デザインの方向性を自ら考え出し「社会の問題点を解決出来るデザイナー」を目指す。近年業界でどの職種でも求められる知識としてWEBについての授業は全員に必須授業となっているが、IT化やコロナ禍においては今後さらに必要な知識として動画コンテンツの制作が広告業界には欠かせなくなったことを踏まえ、映像・アニメーションの授業を2022年度より必修科目として追加変更している。

b，ファッションビジネス学科（昼3年）

ファッションのビジネス・アパレル系の業界では、専門的な知識が必要とされビジネスと直結する事を考えると、ファッションのデザインや販売のため、マーチャンダイジングからファッション業界に付随する知識まで網羅する人材を育成している。1年次は、ソーイング、ファッションビジネス基礎、ファッションクロッキー、ファッションコーディネート基礎等を中心に基礎を固め、2年次は、ファッション制作やマーチャンダイジング等現場に則した授業を行うとともに、3年次は、店舗やメーカーを想定したブランディングを実際の現場（近隣ファッションショップ展開）における立地や地域環境を考慮にいれて展開する実践的なファッションの体験を授業に含めていく。そして、今後の時代を見据え、SNSやWEBサイトを利用した広告宣伝やECサイトを利用した販売方法なども理論で学んだことを実践していく。2020年には、ECサイトを利用して学生が制作したリメイク衣料の販売を行った。2021年には校舎内地下に無人ショップを開店した。店舗デザインや売り場づくりの実践の場となることはもちろん、学生が制作したリメイク衣料の販売ショップとして、作品を実際に販売できるシステムを作った。
技術の向上につながることはもちろん、学習意欲の向上にもつなげていきたい。今後は、SNSを使った販売促進や商品撮影も学生自身が行うなどWEB販売についても理解を深めていく必要があるため、2022年度からはSNSやインターネットに関する授業を設けている。更にファッションとブライダルは深い関係があり、ブライダル企画・ウェディングドレス・パーティドレス・ブライダルビューティを学び、実際のウェディング人前式を行う。本物の人前式では、進行・プランニングが必要となり、ウェディングプランナーやドレスコーディネーターとしても活躍できる力を身に付ける。

c，建築設計デザイン学科（昼3年）

インテリアデザインの専門知識と技術の基礎を身につけた上で、実際の業務能力において業界の求める「現在のスキル」（＝3DCADなど）を付加したインテリアデザイナー・空間デザイナーを育成している。1年次は空間の基本概念を理解し、設備、インテリアマテリアル、デザイン配色等の知識とともに、パースや基礎製図の基本をマスターする。また、空間づくりには欠かせない手を動かし空間を理解する授業では、模型を細部の仕上がりにまでこだわり、制作を行っている。2年次は家具、ガーデンデザイン、ディスプレイデザイン等でさらに基礎の土台を広げる事と共に、3DCADなどの演習で提案のまとめからプレゼンテーションまでの技術を習得する。また、3年次では、今の時代背景に合わせた課題内容に取り組んでいく。これからますます公共事業は減少される事が予想される。しかし、住（空間）が不要となる事は決してない。一方で地域社会の変化に伴い空き家や空き店舗といった遊休不動産が生まれている現状があ

る。そのような課題を解決するために中心に置くのは「コミュニケーションデザイン教育」である。街の一部として空き家や空き店舗を再生するには、周辺環境や街に暮らす人々と関わりながらデザインすることが欠かせない。2021年度からは授業の一環として地域住民や地域を支える企業の方と意見交換ワークショップを行っている。また、イベントに参加して地域の方へアンケート調査を実施し、地域の声をデザイン制作に反映させている。そして、本校の学科の特徴が上手く発揮できるようにインテリアの細部までこだわるとともに、制作プロセス→現場調査→課題発見→解決→企画（コンセプト）→制作（デザイン力の高い）→プレゼンテーションの一連の制作を習得できる授業とする。さらに実践的な学習として、家具・雑貨・ガーデン・DIYの授業ではデザイン案の制作だけではなく実際にものづくりを行い、インテリアエレメントの理解を深め空間をデザインする力を磨いていく。また、建築現場等で必要な資格講習を受講できるシステムやデザイン系の資格取得対策にも取り組んでおり、難関資格であるインテリアコーディネーターにも合格している。

＊二級建築士受験資格実務0年認定校
一級建築士受験資格実務4年認定校

d, キャリアアップデザイン学科（昼1年）

社会的なニーズとしてリカレント教育の充実が期待されている。デザインを学び磨かれる課題解決力や創造力、プレゼンテーション力はキャリアチェンジやキャリアアップのための社会人スキルとしても重要である。また、地域社会の課題を多数取り上げる学習内容は、地域で活躍できるデザイナーの育成に直結している。授業の構成としては、パーソナルスキル（社会人基礎力）、ポータブルスキル（思考力、課題解決スキル）、テクニカルスキル（デザインをビジネスにつなげる力）を軸に、社会人でも学びやすいようオンライン学習でデザインの基礎や動画・WEBなどが学べる内容としている。そして、企業実習ではリアルな企業の抱える課題解決に取り組む。本科3年を学んだ学生にとっても更に学べる内容となっており、在校生の進学と一般募集を行う。2022年には2023年度の3年生に向けて説明会を実施した。3年次では当学科を体験できるプログラムを実施することにし、内部進学につながった。

Ⅲカリキュラムについて

a,学生への周知

学生に配布している、オリエンテーションテキストⅠ、オリエンテーションテキストⅡにおいて、学則等の表記（抜粋）と単位認定の基本ルールを表記するものとする。主要科目の内容も表記し、年2回（学期始業時）行われるオリエンテーションにおいて周知する。課題内容については、目的やねらい等が記載されている指示書を掲示されており、また大きな課題についてはキャリアデザインの授業内にて連絡する。

b,講師への周知

各授業における年間のスケジュールについては、講師が授業の年間計画書を提出することとし、教務職員は内容や課題の調整等を目的等に擦り合わせた上で検討する。半期ごとに授業時間が規定の時間に満たない場合は、補講期間に授業を行い、やむを得ず授業が行えなかった場合も規定数の時間は原則必ず行うものとする。

また、年間で2回講師会議を行う事とし、その中で「分科会」として企業・団体等連携授業等の打ち合わせやカリキュラムについてディスカッションし、各講師の先生方のベクトルを調整する一方、有効な解決策を見い出す場とする。

c,構成について

カリキュラム構成の考え方は、「課題解決力」「企画力」「表現力」を養うプログラムで構成され、授業全体の中で、デザインプロセスは、取材（情報収集）→課題発見（現状把握）→解決（求められたアイディア）→企画（情報分析と仮説）→制作（デザイン力の高い）→表現（プレゼンテーション）を見据えたカリキュラム計画を考えている。カリキュラム等については、これまでも業界各関係者や企業・団体等から色々な意見を頂き、それを活用して構成し、現在に至っている。また、企業・団体等との連携においては平成7年から取り組んでいる。

意見を集約しながら、より実践的で即戦力となる人材を育成する為にカリキュラムの編成をする事を目指している。

d,カリキュラムの全体構成の見直しについて

カリキュラム構成の見直しについては、業界や企業のニーズに応えられる人材を育成するための重要な作業である。年に2回行われる講師会議等で度々議論になるが、有用な人材を育成するためのプログラムとして、学生の能力、進捗度に合った緻密な作業を通して見直しをする必要がある。また、3年間におけるスケジュール、各学年の課題の出題内容、修了制作展の内容等（企業・団体等連携授業＝職業実践授業）も

踏まえた計画が今後も必要である。そして、各業界団体、企業、卒業生、教職員のメンバーを抜粋し「教育課程編成委員会」を組織し、年間2回以上の会議を開催して、必要に応じてカリキュラム全体の構成を見直すものとする。2021年度は講師の交代を含め18科目以上の授業の見直しと打ち合わせを行い、2022年度から新しい内容で運営を行う。

e,カリキュラムの評価について

カリキュラムについては、入学時に配布される「オリエンテーションテキストⅡ」に記載されている。

各授業についての評価として、毎年授業満足度アンケートを実施している。

カリキュラム全体の構成が、学生にとって魅力的かどうかを見通す意味でも学生全員により全科目実施している。

アンケート項目としては、以下の通りである。

質問1　時間配分と進行ペースは適当ですか

質問2　授業の目的と課題内容が合っていますか

質問3　学習機器の調整・整備がされてますか

質問4　学生一人ひとりの能力にあった指導を行ってますか

質問5　質問の対応は丁寧ですか

質問6　授業時間は有効に活用されてますか

質問7　全体を通して授業の内容を理解出来ましたか

質問8　板書などはわかりやすかったですか

質問9　この授業に満足していますか

以上の項目において学生は、満足/やや満足/普通/やや不満/不満/を選択出来る。

また、項目として最後に各授業について自由意見が書けるようになっている。

表示については授業別にまとめて集計し、円グラフによりビジュアルで理解できるように表記するものとする。

f,授業満足度アンケートの活用

学生一人ひとりからの意見等を反映し、各授業別にシートを作成する。それをもとに、教務職員やディレクター（部長）等で協議し、授業等の問題点を抽出し（特に問題が大きい場合）各先生とシートを利用して直接打ち合わせにあたり、問題点を解決する。平成13年から授業満足度アンケートを導入し、満足度は劇的に上がってきている

し、年度毎の学生の動向の把握は、かなりしやすい環境にはなってはいるが、今後質問項目等の再検討を図りたい。

g,2023年度授業満足度アンケート結果報告

2023 年度のアンケート結果も、「普通・やや満足・満足」の合計が 80～90％を超える満足度の結果が出ている。

年2回の講師会を通して各学期に出た問題点や共通認識が必要な事項については報告を行い情報共有している。中には、個々の授業が抱える問題もあるので、講師の先生方と打合せを実施し次年度へ向けた改善の方針を協議している。

また、「普通・やや不満・不満」の％が高い授業の傾向として、学ぶ目的を学生が十分に理解できずモチベーションが下がっていることが感じられた。各学科は専門分野の授業を実施しているが、多角的にデザインを考える力を養うためには、関連分野を学ぶことも必要である。ひとつひとつの授業の目的と各授業の相関を学生に理解させることで学ぶ意欲を上げていく必要がある。協議が必要な授業に関しては、講師と個別に打合せを実施した。

その他に、学生からの意見を参考に改善した点として、故障や不具合のある施設設備に関しては動作の確認と修理や購入を行った。今後さらなる ICT 化が進み、施設のネットワーク環境を整備していくことが求められる。近年、施設内の無線ネットワークの整備を進めており、一部教室を除き施設内は無線 Wi-Fi が整備されている。2022年度は補助金を利用し、校舎内のネットワークを一新した。建物の構造内を通る LAN ケーブルの交換と各教室に設置された無線機の交換・増設を行った。それにより、①学生用と教務職員用の回線を分けることでセキュリティが向上、②最新機器の導入により回線速度の高速化と安定化が図れた。

また、学校生活を送る中で、就職や将来に対する不安や心配を抱える学生もいるのではないかと思う。匿名ではあるが、兆候を見逃さないようにしたい。教務連絡や指導方法についても年 2 回のアンケートによる評価をもとに教務部としても学校運営の見直しをする機会としている。今後も毎年のアンケート結果については内容を精査し、問題点の本質を捉え対応をとっていくこととする。

h,授業満足度アンケートのデータ化

授業満足度アンケートは平成16年からPCによる集計がなされるようになり効率化に成功している。学生が教材で使用しているノートPC上から打ち込めるようにプログラム

を作成し、教務職員が行っているキャリアデザイン内で短時間で集計出来るように配慮した。

i,キャリア教育の観点に立ったカリキュラムについて
キャリア教育に対する考え方は、「キャリアデザイン」という授業を教務職員が運営しており、その中で1年生、2年生、3年生をフォローアップするプログラムが組まれている。教務職員は教務主任を中心に、学生指導のプログラムを協議し内容を検討していく「キャリアデザイン」は週1回の授業形式とし、その指導を行う為のミーティングを毎週に実施して新入教務職員でも全員が共通認識できるように、話し合いの場を設けている。

キャリアプログラムとは、社会人を目指す上での生活指導、就職指導が主な内容であり、就職の為のマナー講座の実施として、水戸公共職業安定所の方にお越し頂き就職活動講座を実施している。また職業理解のための「卒業生を囲む会」（年1回実施）、「業界人を囲む会」（年一回実施）、就職模擬面接（年一回実施）、就職ガイダンス（年2回実施）、企業見学会等が含まれる。これらは、キャリアアップのプログラムとして学生への重要な情報提供として機能している。2022年度も円滑に執り行われている。また、教務職員におけるキャリア教育への知見は、これらのイベント等への参加により自動的に養われ、学生への指導力も向上するものと考える。

Ⅳ単位認定・成績評価の考え方ついて

単位認定については、①出席、②課題、③試験により認定され、①出席であれば8割以上の出席とし、②課題については提出期限厳守と60点以上の素点評価（規定課題）、③試験（年2回の定期テスト）は60点以上の点数をもって単位を認定する。上記以外より単位不可とすることは原則無く、上記3つの項目の中で単位の認定をする。これは、単位の認定において、個人のしい性が介在しない方式であり、公平性を保つ為のものである。半期毎に「単位判定会議」が執り行われ、判定の困難な事象に関しては、透明性の高い会議の場で判定を行っている。

成績評価については、A・B・C・D　の4段階評価とし、Dを単位不可とする。

Ⅴ資格取得・国家資格に向けた授業について

資格を取得することは、デザインの専門分野における知識・技術を習得していることの客観的証明であると同時に、目的に向って継続的に努力でき得る証でもある。その意味で、職業能力の一部として資格取得を位置づけ、取得可能な学科によっては資格取得目標を設定している。

建築設計デザイン学科においては、国家資格二級建築士の資格は建築を目指す上で必須であり、受験資格を取得できる。また、インテリアコーディネーターの資格取得講座を設けており、在学中に全員受験とする。

＜国家資格＞
建築設計デザイン学科
二級建築士　受験資格実務0年認定校
一級建築士　受験資格実務4年認定校
二級建築施工管理技士

広告プロモーションデザイン学科
ウェブデザイン技能検定（厚労省）

ファッションビジネス学科
ブライダルコーディネート技能検定（厚労省）

＜取得可能な資格＞
建築設計デザイン学科
二級建築士　インテリアコーディネーター　福祉住環境コーディネーター
CAD利用技術者検定　インテリアプランナー　AFT色彩検定
商業施設士/商業施設士補
小型移動式クレーン運転技能講習
小型車両系建設機械の運転業務に係る特別教育
足場の組立て業務に係る特別教育　高所作業車の運転業務に係る特別教育

広告プロモーションデザイン学科
AFT色彩検定　レタリング技能検定　Illustratorクリエイター能力検定試験　Photoshopクリエイター能力検定試験　Webクリエイター能力検定試験

ファッションビジネス学科
ファッションビジネス能力検定試験　AFT色彩検定　販売士
WBJ認定ドレスコーディネーター
ジェルネイル技能検定　Illustratorクリエイター能力検定試験　Photoshopクリエイター能力検定試験　サービス接遇検定　マイクロソフトオフィススペシャリスト

Ⅵ業界との協力体制

以下の業界団体から強力なバックアップを頂いている。

茨城県建築士会

茨城県建築士事務所協会

日本建築家協会　関東甲信越支部　茨城地域会

茨城県建築士事務所協会　茨城県建設業協会

茨城インテリアコーディネーター協会

日本建築学会関東支部茨城支所

茨城デザイン振興協議会

日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）

水戸京成百貨店

水戸オーパ

水戸ステーション開発

茨城県デザインセンター

イオンモール水戸内原

上記各団体とのコラボレーションで有名デザイナーのギャラリートークを実施している。学生が刺激を受けるのはもとより、茨城の中に新しいデザインの風を送り込むイベントとして影響は大きいと思われる。

ギャラリートーク実施

24年度実施　内田　繁氏　特別講演会
　　カイシトモヤ氏　特別講演会

25年度実施　新村　則人氏　特別講演会
　　谷口　広樹氏　特別講演会
　　坂　繁氏　　建築学会特別講演会

26年度実施　堀場　弘氏　建築学会特別講演会
　　青木　克憲氏　特別講演会

27年度実施　伊藤　有壱氏　特別講演会「ネオクラフトアニメーションの世界」
　　（茨城デザイン振興協議会）
　　福島　加津也氏　建築文化講演会「工学と美学」
　　（日本建築学会茨城支所）

28年度実施　森山　恵氏「使えるインテリアコーディネートのテクニック」
（IICA）
西村　浩氏「建築とふるまい」
（JIA）
小布施町長　市村　良三氏　環境セミナー「協働と交流のまちづくり」
（日本建築学会茨城支所）
ミック・イタヤ氏　特別講演会「視点　ヴィジュアルアート」
（茨城デザイン振興協議会）
遠藤　秀平氏　建築文化講演会「PARAMODERN　ARCHITECTURE」
（日本建築学会茨城支所）

29年度実施　福地　智子氏　環境セミナー「身近な日常空間の音響設計」
（日本建築学会茨城支所）
工藤　良平氏　特別講演会「ワビサビ」
（茨城デザイン振興協議会）
松岡　恭子氏　建築文化講演会
「これからの社会に建築が向き合うべきこと」
（日本建築学会茨城支所）

30年度実施　松隈　章氏　環境セミナー「聴竹居藤井厚二の木造モダニズム建築
～人と地域を未来へつなぐ～」
（日本建築学会茨城支所）
久田　一男氏　講演会「未完成住宅で住宅にインテリア革命を」
（インテリア産業協会）
桑　和美氏　特別講演会「パッケージデザインのチカラ
～お金を払ってでも欲しくなるワケ～
（茨城デザイン振興協議会）
比嘉　武彦氏　講演会「建築の公共性」
（日本建築学会茨城支所）
羽鳥　達也氏　建築文化講演会「私たちの設計手法について」
（日本建築学会茨城支所）

2019年度実施　竹内 昌義氏　講演会「エネルギーと建築家」
佐藤 秀人氏　環境セミナー「海ゴミプラスチックによる環境
汚染問題を考える」
（日本建築学会茨城支所）
荒井 詩万氏　講演会「あか抜けインテリア」
（インテリア産業協会）
桐山 登士樹氏　基調講演「明日を創るビジネスモデル
～モノづくりからコト育て～」
（茨城県デザインセンター）

2020年度実施 伊藤 麻理氏 建築文化講演会「新しい図書館とランドスケープ」
（日本建築学会茨城支所）
原 忠信氏　講演会・パネルディスカッション　ニューノーマル時代
「いばらき発、地域デザインのポテンシャル」
（茨城デザイン振興協議会・茨城県デザインセンター）

2021年度実施 種田 元晴氏 建築文化講演会「大江宏を考える」
建築の魅力と今こそ再考すべき意義
（日本建築学会茨城支所）
浦部　智義氏　環境セミナー
「3.11後の福島県内の応急仮設住宅の建設から移設再利用について～ログハウス型の応急仮設住宅を中心に～」
（日本建築学会茨城支所）
菅原広豊氏 講演会・パネルディスカッション地域×デザイン＝世界
「今求められる世界と地域を繋ぐグローカル志向のデザイナー」
（茨城デザイン振興協議会）
ジョナサン・アンダーソン氏　特別講義 英国ファッション＆ジャパン
in Conversation with Jonathan Anderson
（文化服装学院）

2022年度実施　益子一彦氏　建築文化講演会「建築の構成と構造」
（日本建築学会茨城支所）
富田敬子氏　環境セミナー
「SDGsが変える地球と社会～建築家の責務とは～」

（日本建築学会茨城支所）
石井翔太郎氏　デザインセミナー「人は人の想いに共感すること」
（茨城デザイン振興協議会）
軍地 彩弓氏　SALON IBARAKI
「人と人、人と自然の間にあるファッションの未来」
（茨城県県北生涯学習センター）
野原大五氏　自己発見プログラム
「強みや特徴をうまく活かしながら、VUCA時代に順応する術を身につけること」
（株式会社リクルート）

2023年度実施　金箱温春氏　建築文化講演会「構造デザインの発想」
（日本建築学会茨城支所）
町田誠氏　環境セミナー
「公園活用からのまちづくり展開～Park-PFIが拓いた世界～」
（日本建築学会茨城支所）
ミック・イタヤ氏、川又俊明氏
デザイントークセッション「地域とブランディング」
（茨城県デザインセンター）
野原大五氏　自己発見プログラム
「VUCAの現実に直面する世代の進路選択意識と求められている学びの価値とは？」
（株式会社リクルート）

Ⅶ企業・団体等連携授業について

本校における大きな特徴としては、すべての学科すべての学年で、地域社会や企業と連動した授業が展開され、歴史をさかのぼれば平成7年よりその方向性を模索してきているということが挙げられる。行方市をはじめ、笠間市、常陸太田市、鉾田市などの行政をはじめ多くの企業・団体が地域や業界の発展のために本校との連携授業を積極的に活用して頂けるようになり、年間で10以上の連携プロジェクトを動かしている。

Ⅸ修了制作展　作品の展示について

本校は年に一回作品展示会を行うこととする。時期は2月に実施し、各学年のまとめとして展示する。教職員は、学生を指導し内外の関係者および地域への案内を含めて広く告知し、日頃の学生の学習の成果を展示出来るよう準備サポートする。また、この展示会が本校学生のデザインクオリティーを評価するものと考える。

＊2023年度学校関係者評価委員会の意見・感想・気になった事

「生まれ変わる常陸大宮駅周辺のPRキャラクターの提案」

プレゼンに慣れていない学生だったが一生懸命さが伝わった。1年次からこのような経験を積むことで卒業までにスキルアップできると感じた　（岡田委員）

キャラクターを考えるプロセスが見れてよかった。それぞれの学生の切り口が面白かった　（竹越委員）

緊張しながらも良くプレゼンできていた　（阿久津委員）

「生まれ変わる常陸大宮駅前商店街の空間活用プロジェクト」

生成AIを実際にプロセスの中で適切に使われているようだった。学生の考え・デザインを壊すことなく講師のアドバイスで良い作品になったことを本人に確認できた　（岡田委員）

コンセプトがしっかりしていて、そこから空間やツールのデザインに展開されていてよかった　（竹越委員）

商店街の活性化を本当によく考えていると思う　（丸山委員）

「天王崎エリアを中心とした行方市プロモーション企画」

話慣れている感じがして聞いていて面白かった。プレゼンの機会が多いことが良いと思った。展示の見せ方にも工夫が感じられた　（竹越委員）

町の特性を生かし新たな提案があって興味が湧いた　（阿久津委員）

最終学年ということも考えると、対象・テーマを固定せず学生それぞれが提案内容を探して設定してデザインしても面白いと感じた　（飯島委員）

「天王崎エリアの立地や自然を楽しめる住居の提案」

それぞれが一生懸命に考えていて素晴らしかったが、もっともっと立地や自然を楽しむにはということを深堀りして欲しいと思った　（飯島委員）

プレゼンテーションボードにコンセプトを入れてしっかりできていた　（丸山委員）

「天王崎周辺に湖畔を活かした魅力あるショップの計画」

3DCADの技術の差があるように感じた。模型の仕上がりは良くできていた。プランニングも面白い（阿久津委員）

行方市との融合を良く考えている。デザインも面白い（関根委員）

模型製作、パース作成、図面の描き方等、修了制作と切り離してしっかりスキルを上げる授業も重要ではないか（飯島委員）

「常陸大宮駅東口に街並みを活かした施設の提案」

制作過程で行政担当者と意見交換をしていて、課題解決のためのデザインワークになっていると感じた（岡田委員）

3年生になるとレベルが上がっている。1人1人コンセプトを良く持っていて3年間の成長を感じる（関根委員）

グループワークをもとにした統一のデザインコンセプトがあっても良かったと思う。プレゼンの手法が変わっていても良いと思う（飯島委員）

「ファッションコーデPR作戦」

色使いひとつにコンセプトがあり感心した（丸山委員）

1年生らしい一生懸命さが伝わった。発想力をどんどん伸ばして頑張ってもらいたい（関根委員）

プレゼンになれていない学生もこれから頑張ってほしい（阿久津委員）

「ファッションデザインとディスプレイ計画」

プレゼンを聞いた作品はコンセプトがしっかりしている良い作品だった（丸山委員）

ディスプレイ制作やフレーミングの内装などは建築設計デザイン学科との共同製作があると可能性が広がるのではとも思う（飯島委員）

すごく楽しそうにプレゼンテーションをしていて自分をよく表現している（阿久津委員）

「ファッションコーデ開店」

コンセプトがしっかりビジュアルに落とし込まれていると感じた（岡田委員）

秘密基地という発想から色々なことに結びつけられていると感じた（丸山委員）

店内レイアウトも動線を考えながらデザインできるともっと良い（阿久津委員）

Ｘ実践的な職業教育について（インターンシップ）

全学科学年において、地域社会や企業と連動して取り組む課題は、学生がデザイナーという職業のプロセスを体験するのに大変効果的であり、常にデザインを通して問題の解決を考えるプロ養成のための実践的な職業教育として捉えている。これは広義の意味でインターンシップ（職業実践型授業）といえる。

本校の学生全員が取り組み行っている制作が、修了制作課題である。その制作過程ではクライアントを見つけて、企業・団体等連携課題協定書を結び作業を進める。実際に制作する内容もクライアントと打合せを行い、必要だと思われるものを制作する。その上でも大切な事は、ディスカッションと現場調査（取材）となる。プロの現場と同じプロセスを辿り制作に挑む。その上でビジュアル的な表現をどのようにアウトプットするか、それもクライアントに必要に応じて確認を行い、あくまでも自分の好きな様に作るのではなく、クライアントの意向に沿った制作を行う。最終的には作品を作り上げて終了ではなく、プレゼンテーションという形で相手に伝える事で終了となる。これらの一連の流れは、まさしく実践的な職業教育といえる。2022年度はインテリア＆家具クラフト学科で資格合格者向けにインターンシップを実施し、設計事務所で模型制作や図面作成等の実務を経験し、就職にも繋がった。2024年度も建築設計デザイン学科で資格合格者向けにインターンシップを実施する予定である。

評価基準3　教育活動

Ⅰ 学科編成における全学科を通しての共通な特徴
Ⅱ 各学科の概要
Ⅲ カリキュラム
Ⅳ 単位認定・成績評価の考え方
Ⅴ 資格取得・国家資格に向けた授業
Ⅵ 業界との協力体制
Ⅶ 企業・団体等連携授業
Ⅷ 業界からの授業成果に関する協力
Ⅸ 修了制作展　作品の展示
Ⅹ 実践的な職業教育（インターンシップ）

評価項目		学校自己評価 4･･･適切　3･･･ほぼ適切　2･･･やや不適切　1･･･不適切
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④　3　2　1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④　3　2　1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④　3　2　1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④　3　2　1
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④　3　2　1
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携による、インターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④　3　2　1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	④　3　2　1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④　3　2　1
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④　3　2　1
10	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	④　3　2　1
11	人材育成の目標を達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④　3　2　1

12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1
15	修了制作展において課題の方向性は合っているか。また、プレゼンテーションは適切に行われているか。	④	3	2	1

課題

⑬関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導育成など資質向上のための取組が行われているか

今後の改善方策

⑬2023年度は生成AIの使用に関する基本方針を策定し、2024年度から運用を開始している。それに合わせて、講師会でリクルート協力のもと生成AIに関する研修会を行った。生成AIに関しては、学習の中で情報収集や試行錯誤を増やすためのツールとして活用し、AIだけによって作られた作品は評価の対象としないこととしている。また、2024年度の講師会の中では、具体的に授業での活用をするための研修を実施する予定である。

評価基準4　学修成果

Ⅰ就職指導の全体方針について

1年生より職業意識を向上させるプログラムの開発と、2年生から取り組む実質的な就職活動へのプログラム、さらに、3年時からの本格的な就職活動に備えるプログラムを充実させている。就職活動時に持参する作品集（ポートフォリオ）については1年生から制作に励み、一朝一夕ではできないクオリティーの作品集を作り上げるノウハウも本校の一つの特徴である。

また、各学年各学科の修了制作において、産業界や地域社会の強力なバックアップのもとで行われる企業・団体等連携授業では、実際のデザインプロセスに基づく課題が制作されるので、学生はその作品集（ポートフォリオ）を持って就職活動に望めるのは、就職活動への自信にも繋がっていると思われる。

Ⅱ就職目標設定と2023年度報告

本校はデザイン学校として、デザインの専門性とデザインマインドを身につけた人材を育成することが目的である。従って、卒業生の最終就職率（就職者/求職者）は本校の教育と学生の職業意識に対する直接の企業評価と考えるので、常に100％の就職率を目標として設定する。ただ就職率を100％にするのだけを目標にするだけではなく、いかに学生が望む就職ができるのかを大切に指導にあたっている。

2023年度の卒業生の就職率は以下の通りである。

建築・インテリア系統　100％

広告・デザイン系統　96.3％

ファッション系統　100％

Ⅲ就職に対する本校の特徴

本校は、デザイン学校であり、「ものづくり」の精神を重んじる事も起因していると思われるが、大半の学生はデザイン業務への志向性が非常に強い。

建築設計デザイン学科では、クリエイティブな職種を希望して卒業をする。この分野での就職可能な企業は、雑貨から始まり家具・住宅設備を扱う所から、インテリア・住宅・ショップ・公共建築物まであらゆる建築物をデザインする企業へも就職する。高校生までには気付くことがない職種が多く存在する分野でもある。

広告プロモーションデザイン学科では、従来のデザイン業務に加え、映像・写真加工系やWEB上の仮想店舗運営への就職も一定の割合を占め、業界のニーズが高ま

っていると感じる。特に企業の販売促進部門等のデザイン業界以外への就職が広がってきており、近年では約半数の割合を占めることもある。情報が溢れ、流行の移り変わりが早い今の時代においては、企業のプロモーションにデザイン的な思考は欠かせないものとしてニーズが高まっていることを感じる。今後も地元企業とのつながりを太くしていきたい。そして、企業からは様々な広報媒体を制作する能力が必要との要望もあり、オールラウンドなデザイン力（紙→WEB→映像→雑誌への対応）を養成するカリキュラム作りに力を入れている。

ファッションビジネス学科については、販売・管理職として大型郊外ショッピングモールから求人の問い合わせが入っているが、新型コロナウィルス感染症の影響として、全体的にゼネラルチェーン展開しているショップをはじめ業界全体として2021年度は求人数が例年と比較し減少していたが回復の兆しが見えている。その例として、インフルエンサー職という求人が出るようになった。背景にはオンラインでの購買促進にはSNSの利用が欠かせないものとなっていることがあり、2022年度の学習内容にSNSビジネスの授業を新設するなどカリキュラムにも反映させている。また、ファッションの知識に紐づけられる写真、ビューティ系への就職も見られる。今後とも各業界への貢献を考える人材育成を目指したい。

Ⅳ就職指導体制

就職指導に関しては、以下の3つのステップからなる

第一ステップ 「デザインマインド」を考えるプログラム

これは、高等学校から直接入学する学生が大半なので、職業としてのデザインを理解してもらうためのプログラムになっている。

a,卒業生を囲む会

先輩からダイレクトに学校生活のアドバイス、就職活動のアドバイス、デザインの仕事内容について話を聞くことは、学生にとって非常に有意義である。

b,業界人を囲む会

業界の動向に詳しい企業の代表者又は人事担当者をお呼びして、講演会形式で業界の動向や業務内容についての講演を頂く。業界理解への効果を発揮している。

c,デザイナーによる講演会

毎年、日本を代表するデザイナーの話しを聞ける機会を設けている。一流のデザイナーの考え方を知る事は、とても刺激になる。モチベーションを上げるためには、打って付けの機会である。

d,自己発見プログラム

2022年度からは1年次よりキャリアデザイン等の授業を通して、自己発見プログラムを実施している。全6回のプログラムでは、グループワークを通して価値観・好きなこと・得意なことの自己理解を深め、それらの重なる部分から自分の本当にやりたいことを見出し、日々の学業のモチベーションにつなげている。また、2年次以降も個人面談等で振り返りを行いながら、目的意識を持って3年間を過ごすための取り組みとしている。2024年度の3学年は3年間「自己発見」プログラムを受ける初めての学年になるのでサポートの体制を更に充実される予定である。

第二ステップ　自立プログラム

a,就職個人面談（相談編）

2年生で行われる面談で、就職に向けての職種相談や就職への心構えなどについて直接対話を実施している。

b,就職個人面接（模擬面接）

デザイン系企業を想定する実践的な模擬面接。事前に教職員の寸劇で面接試験を想定した「良い学生」「ダメな学生」のインフォメーションが入る。

c,グループワークコミュニケーション

「水戸デザインプロジェクト」「水戸まちなかフェスティバル」「BUNKA祭」その他多数グループワークが行われている。

学科間、学年を超えてグループワークに取り組む事で、昨今の学生に不足しているコミュニケーション力をつける為のイベントを実施している。

良いデザインの制作物を作るのには、コミュニケーションは欠かせない。だからクリエイティブな企業からは、コミュニケーション力を兼ね備えた人物を求められる。それは最も大切な事であり、学校としては学生全員がそれぞれのスキルに合わせて、コミュニケーション力を向上させるプログラムを用意して日頃の生活より学ぶ事を意識させている。コロナ禍では、地域の大規模イベントは自粛傾向だが、2022年度は修了制作に関係するイベントでアンケート調査も兼ねたワークショップを実施した。8/27(土)には那珂

市にてひまわりフェスティバル、9/14（水）には水戸ホーリーホックのサンクスマッチに参加した。2023年度は8/11(金)に常陸大宮市でFUN STREET HITACHIOMIYA STATION、11/19（日）になめがた秋まつりに参加した。

第三ステップ　就職活動プログラム

就職活動の前提としては、上記プログラム①デザインマインド、②自立プログラム（自発性からくるコミュニケーション）がしっかり確率している事が重要である。また、ハローワークの新卒担当者による就職活動のレクチャー、長期的なキャリア形成の観点から創業についての講話を実施するなど外部の協力を得ながら指導を行っている。

a,現場・職場見学会

デザインの仕事に就くにあたって現場を見ておくことは大変重要なことである。インテリア＆家具クラフト学科・建築設計デザイン学科では建築空間においてデザインを考えるのに効果的であり、広告プロモーションデザイン学科では印刷技術の知識と紙の種類を学ぶこと、ファッション＆ブライダルビューティ学科・ファッションビジネス学科では店舗を取巻く環境の知識と客導線について学ぶというのが見学会の主旨であり、デザインの仕事を考えた場合、技術の現場が即ち将来の職業と密接に関係する。専門学校の性質上、学習プログラムと就職プログラムとは連動するのが好ましいと思われる。

b,就職ガイダンス

定期的に行われ、就職活動のプロセスとして各学科・対象学年全員参加で行われる学校行事である。昨今の学生の動向から、なかなか動き出せない学生が急増し、粗雑な指導はかえって学生のモチベーションを下げる結果となる。
現在の就職活動の時期に合わせて、ガイダンスの時期も検討しなければならない。
2021年度からは後期の就職ガイダンスを前倒している。修了制作をはじめとする学年のまとめの時期と就職活動を両立させることを目的としている。あわせて、夏休みに実施していた企業見学会の時期も前倒し、夏休みを利用して希望する企業へのインターンシップに参加できるようスケジュールを見直した。

また、インターンシップなども学生自身が行動しなければ、就職を勝ち取れない現実もある。柔軟な行動を求められる状況に学校が対応できる体制が繋がっている事が重要である。コロナ禍ではオンラインでの説明会参加や面接試験に備え、zoomの使い方やマナー等の講習を実施している。

c,就職指導の内容

1年次（業界知識と目標設定　指導評価点＝モチベーションのUP）

･就職までの流れの説明　･業界の知識　･仕事の知識　･目標の確認設定

･ポートフォリオ（作品集）の制作　･モチベーションの確認（面談）

2年次（就職活動への具体的取組　指導評価点＝就職に対する能動的活動）

･就職の心構え　･前年度傾向　･マナー講座　･就職に対する質問　･企業訪問

･写真撮影について　･履歴書　･証明書類　･模擬面接（全員）　･企業リストアップ

3年次（就職活動の結果の追求　指導評価点＝就職率と）

･企業リストアップ　　･就職を見込んだ企業見学（インターンシップ）

･就職面談（希望者）

d,その他の教務部の動き

･企業訪問（前年度就職先企業お礼訪問　5月）

卒業生の企業に訪問し、業界関係者から最新の情報を取り入れるとともに、本校の教育の問題点をダイレクトに探る事を目的としている。

　また、企業団体の繋がりを大切にして、求人情報や求められる人材像・スキルなどの情報収集を行い、学生達には有益な情報を与えるとともに企業団体との円滑な関係を保持する。

Ｖ資格取得について

　学修成果の確認と更なる意欲向上の面から、資格取得に積極的に取り組むことは、業界で求められる実践的な力を養うことと共に重要な学習である。本校では目標資格の取得に向けて対策授業を実施している。キャリアデザインなどの授業内でも問題演習を行いバックアップしている。

　2023年度の卒業生の主な資格取得率は以下の通りである。

建築設計デザイン学科	商業施設士	75%
広告プロモーションデザイン学科	ウェブデザイン技能検定	64.3%（実技のみ合格者89.2%）
ファッションビジネス学科	サービス接遇検定	100%

Ⅵ退学率について

各学科ではクラス担当を中心に年間2回の個人面談と就職指導、学校生活についての相談などを随時行い、安心して就学出来るよう配慮している。退学を希望する場合には保護者を含めた面談を実施し、学生の状況を的確に把握した指導を行っている。

2023年度の卒業生の退学率は以下の通りである。

建築設計デザイン学科	3.5%
広告プロモーションデザイン学科	3.9%
ファッションビジネス学科	4.2%
全体	3.9%

評価基準4　修学成果

Ⅰ 就職指導の全体方針
Ⅱ 就職目標設定と2022年度報告
Ⅲ 就職に対する本校の特徴
Ⅳ 就職指導体制

	評価項目	学校自己評価 4･･･適切　3･･･ほぼ適切　2･･･やや不適切　1･･･不適切			
1	在校生は、面接時に必要な自己アピール力を整えているか	4	③	2	1
2	就職プログラム（企業訪問・求人票送付・模擬面接・卒業生を囲む会等）は適切にスケジュールされているか	④	3	2	1
3	就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
4	資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
5	退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
6	卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	④	3	2	1
7	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

課題
①在校生は、面接時に必要な自己アピール力を整えているか
⑤退学率の低減が図られているか

今後の改善方策
①2022年度よりスタートした自己発見プログラムでは自己の本当にやりたいことを目標とし、日々の授業の意欲向上に結びつけてきた。2024年度の卒業生ははじめて就職活動を迎える。就職活動においても、自己アピールにその成果が発揮されることを期待している。
⑤2023年度の退学率は3.9%だった。日々の生活指導や保護者との連携などの細やかな対応も含め、自己発見プログラムの定着が退学率の低減にもつながっている。

評価基準5　学生支援

Ⅰ学生支援体制

a,クラス担当について

　各学科でクラス分けており、それぞれに担当教員がいる。
担当教員は、学生の生活指導や、キャリアデザインという授業を通し学生の就学意欲の向上、職業理解、実質的な就職指導まで一人ひとりとの面談も多く取り入れ支援する体制を整えている。

b,キャリアデザインについて

「キャリアデザイン＝自立に向けた学生へのインフォメーションの時間」
各学生へのインフォメーションは「キャリアデザイン」の時間に行われ、規定課題や練習課題等のインフォメーションや、出欠や清掃の指導など、学校生活の部分まで細かくインフォメーションされる。昨今は神経質･心配性な学生も多く、細かく気遣われたインフォメーションが重要である。そして、インフォメーションにおいては、「不公平感」の無いよう細心の注意をはらうものとする。
「キャリアデザイン」においては、週間と月間とインフォメーションの内容を教務職員ミーティングで協議し、テーブルの上に問題点を見える化することによって、指導の目的としている①デザインへの意欲　②職業への意欲　③社会生活への意欲の向上を目指すものである。

c,奨学金及び学費について

　経済的支援の必要性は年々増している事は明らかである。よって、本校では様々な奨学金及び国の教育ローン、民間の教育ローンなど広くインフォメーションしている。
　また、高等学校説明会や本校の説明会において、奨学金に関する案内を入れる事は近年重要になっている。また、保護者も交えた上での経済的相談は、進学に関して経済的な理由で諦めてしまっている学生にとって有効であり高等学校等でも強くインフォメーションしたい内容である。また体験入学会では、保護者にも参加して貰い、別メニューにて奨学金・入学金等、出願方法の説明を行っている。保護者の一番求めている情報は、入学する際の情報となる。それに対応できる機会を設けている。
　そして、2020年度から継続している対応として、新型コロナウィルス感染症の流行により経済的な影響が大きいことも踏まえ、①給付型奨学金予約採用者に対しては国の修学支援額を差し引いた残金を初年度学費とする制度、②貸与型奨学金の予約採

用決定者に対しては授業料の猶予制度を設け、通常二分割のところ四分割の納入にて入学できる制度を設け対応している。また、2024年度には新たな修学支援制度の区分に合わせて、建築設計デザイン学科の専門課程の分野を文化・教養課程から工業課程に変更申請を行う予定である。

奨学金等取り扱い一覧
国の修学支援新制度（給付奨学金、授業料等の減免）
日本学生支援機構奨学金制度
茨城県奨学資金
国の教育ローン
民間の教育ローン

d,健康支援
　学生の健康支援については、毎年健康診断を実施（学校保全安全法）している。結果は個別に通知している。インフルエンザや特定伝染病については1週間の出校停止とし、完治するまでは自宅待機とする。これらは、水戸保健所の指示に従うものである。また、ワクチン接種など校医による健康支援も行われている。緊急用のAEDが1階に設置されているが、使い方については毎年訓練が行われている。
　また、新型コロナウィルス感染症対策として、①入館時の検温、②常時換気での授業実施、③手指消毒の励行など基本的な感染症対策を講じて学校運営を行った。そして、陽性者と濃厚接触者、発熱などの風邪症状が見られる場合には自宅待機を指示し感染拡大防止に努め、大規模接種会場などのワクチン接種情報の周知や接種日と接種の副反応による欠席に対しての考慮を行っている。自宅待機者に対してはオンラインを活用し授業を受けるなど学びの継続にも努めた。2023年5月以降は5類感染症に移行し、インフルエンザ同様に感染時の出校停止の対応としている。

e,その他支援体制
　遠距離通学者へのアパート情報等の対応やアルバイト情報等生活支援情報も掲示板等で支援をしている。アルバイトについては、年間に出される課題の数も多く、アルバイトに重きをおくと本業である学業が疎かになる恐れがあるが反面、学生生活の安定と職業の理解においてはプラスの側面も多い。特に、デザイン系のアルバイトについては学校が推薦している場合がある。また、就職活動にも影響する運転免許の取得支援として合宿と通学による2校の教習所を希望者に紹介している。また、単発で行われる地域貢献型の課外活動については、学校から学生を推薦したり、積極的に活動

に参加するよう促す場合があるが、それらは基本的に希望者による参加がほとんどである。

評価基準5　学生支援

Ⅰ 学生支援体制

	評価項目	学校自己評価			
		4･･･適切	3･･･ほぼ適切	2･･･やや不適切	1･･･不適切
1	進路･就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
2	学生相談に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
4	学生の健康管理を行う体制は整備されているか	4	③	2	1
5	学生の生活支援に対する支援体制は行われているか	④	3	2	1
6	保護者と適切に連動しているか	④	3	2	1
7	卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1

課題
⑤学生の生活支援に対する支援体制は行われているか
⑦卒業生への支援体制はあるか

今後の改善方策
③⑤学費猶予制度は2020年以降継続しており、貸与奨学金の利用者には学費の1/4分割、給付奨学金受給者には、学費を減免した残額の請求の対応を行っている。入学時に限らず、在学中の経済的な支援となってる。また、飲料や教材など学生へ無料配付している企業支援にも応募をしており、積極的に活用していきたい。
⑦卒業時の就職未定者に対しては、毎月の連絡･面談と求人紹介や履歴書添削などの就職支援を卒業後も継続している。

評価基準6　教育環境

本校は水戸市の市街地の中心に位置し、企業や商店、商店街との連携が図りやすい。デザイン学校として、企業・団体等連携授業により職業的実践教育を行うにあたりデザイン学校としての立地条件としては十分である。また、学生にとって公共の交通機関が整っているため通いやすい。

Ⅰ施設･設備状況について

本校の教育上必要な施設･設備については、年度ごとに優先順位を検討し環境の整備をしている。次年度会計の予算に応じた設備投資予算を執行し、可能な限り施設・設備の維持向上を図っている。平成28年度には、屋上の防水工事を行った。長年の劣化により、雨漏りが発生していた部分を早急に対応し、大きな工事になる前に工事を終えられた。平成29年度には、老朽化した椅子が多く目立っていたので、大幅に新しい椅子へと買換えを行った。2020年度にはL201教室・L202教室の改修工事を行い、カフェ・ラウンジを整備した。空間のデザインから施工にも学生が関わり、快適な空間となった。2021年度は用途変更に合わせL302教室とL303教室の界壁工事を行っている。また、女子トイレの洋式化工事を2期に分けて実施し、全館工事が終了している。その他には、学生満足度向上を目的とした文具・菓子類の無人販売機を2020年度より導入し学校生活の利便性を高めた。その他に授業用設備として2021年度は75インチの大型モニターを6台導入、地下テナントが空床になったことに伴い、学生が制作したリメイクや古着、雑貨等を扱う無人販売ショップに改修した。
2022年度は翌年度以降の学生数の増加に対応するため、5階L501教室を大講義室に改修した。その他にも、通信機器の整備として、各階のWi-Fi機器の新設・交換、建物内の有線LANケーブルの入れ替えや教室内の無線化工事を実施し、インターネット環境を向上させた。2023年度は翌年度以降の学生数に対応するため、テナントとして企業に貸し出しをしていた4Fフロアの一部を教室として利用していくことで合意し、新たに2教室を整備した。

Ⅱ防災･災害に対する対応について

防災計画については、毎年全学年において防災訓練を実施している。火事を想定した避難訓練になっているが、2011年3月11日の大地震を受けて、地震の場合も考慮･計画の対象に入れている。火事や地震を想定した全学生への避難指示計画は十分にマニュアルかされているが、想定を超えた災害も十分想定しなければならない。

2023年度は4月20日に避難訓練を学生職員全員で行っている。例年、実施は4月早々に行う。新入生がいつ何時災害があったとしても、対応がとれるように訓練を行っている。2021年度は防災対策も充実させており、非常食などの防災グッズを購入している。

Ⅲ保険への加入について

本校では授業中や通学途中の事故、課外活動の事故等への対応として学生全員に保険への加入を義務づけている。
また、イベントに参加する機会やインターンシップを行う際にも必ず保険に加入している。

評価基準6　教育環境

Ⅰ 施設・設備状況
Ⅱ 防災・災害に対する対応
Ⅲ 保険への加入

評価項目		学校自己評価			
		4･･･適切	3･･･ほぼ適切	2･･･やや不適切	1･･･不適切
1	施設･設備は、教育上の必要性に十分対応出来るように整備されているか	④	3	2	1
2	学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
3	防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

課題
①施設･設備は、教育上の必要性に十分対応出来るように整備されているか
③防災に対する体制は整備されているか

今後の改善方策
①2022年度より継続して検討していた教室環境については、2024年度入学生の募集状況を鑑み、テナントとして貸し出していた4Fの一部教室を2024年度より授業用教室として利用することで合意した。設備工事も実施し、新たにL401教室、L402教室として2教室を追加した。
③防災面の整備として6F、7Fの界壁工事を実施し、全館2方向避難ができる校舎に整備が完了した。

評価基準7　学生の受け入れ募集

Ⅰ募集の動き

①高等学校説明会

　各高等学校を会場として行われる。本校の募集広報という意味も当然あるが、高校1年生からの説明を大事にしており、むしろ高校生のための職業理解の為の講座を受け持っているという社会貢献度の高い重要任務と考えている。

②高等学校　進路指導部訪問

　募集についての各種情報の提供と、本校の認知度を上げる意味でも重要である。訪問の中には、生徒向けパンフレットの設置や推薦書類の説明、願書受付報告等の機会もある。

③体験入学会

　本校への入学に一番繋がるのが体験入学会である。これに参加者をどれだけ多く集められるのかが、次年度の入学数に大きく関わってくる。これに仕向けての戦略を今後は最も考えなくてはならない。コロナ禍の対策としては2020年4月からオンラインでの学校説明会、学校紹介動画の制作を行うなど高校生と直接対面できない状況の中でも募集広報が滞らない対応をしている。

④AO入学生対象プレスクール

　早期進路決定者に対してはAO入学制度があり、半年間無料のプレスクール（事前教育）を開講している。入学前にデザインを学び自信につなげることや不安を解消する目的として毎年多くの入学生がAO入学を希望している。

Ⅱ広報媒体

　本校の特色を出すという事と、誇張した表現のない本来の姿をダイレクトに伝える広報を目指す。

本校の場合、産学官連携のパブリシティー（新聞･NHK･雑誌）に取り上げられるケースが年間5回以上発生し、効果･信頼感の向上は大きいと思われる。

①パンフレット　②WEB　など

2021年は事業計画に掲げたチャレンジとして、募集動画の配信に力を入れた。スタディサプリやYoutube動画の制作を行い、今の時代に合わせた広報を取り入れることができた。2022年度は動画媒体の利用を継続するとともに、新たな広報としてInstagramの発信に力を入れた。公式アカウントを立ち上げ、運用分析ツールを導入し、アカウント運営のノウハウを学び、年間を通して継続的に投稿を増やすことができた。2022年度

以降は、LINEとInstagramを使って位置情報を利用したジオターゲティング広告を配信し、高校説明会などの接点以外の潜在的な入学希望者へ周知を行っている。

Ⅲ募集体制

原則として教務職員は募集→運営→就職という学生指導に関する全ての指導を行う。募集のみ担当するわけではないので運営や就職の状況も把握しており、高校の先生や、生徒に対し全体的な学校情報が伝えられる体制を整えている。

Ⅳ学費について

現在適正な金額と思われるが、昨今の経済状況からしても保護者の負担は大きいと認識している。しかしながら、昨今の物価高騰とともに、電気代などの固定費の値上げが著しく、学費に転嫁せざるを得ない状況となっている。2023年度は学費を変更するための学則変更の手続きを行い準備を整え、2024年度入学生より学費を一部増額する。企業・団体等連携課題において、企業や団体等が課題制作時の取材費等（バス代金･食事代･研修代）を負担して頂けるケースがあるのは非常に有り難いと思っている。

保護者における経済的な負担を考えれば当然であるが、教務部の教材採用については、なるべく教育効果が高くその中でも低価格の教材を見つけ出す事に努力している。

また、デザインを学びたい意欲を持っているが、家庭の経済的な理由により進学を諦めなくてはならない生徒も把握しており、学費を減免する入試制度を設けている。特待生推薦入学・建築士特待生推薦入学は、成績・欠席日数の定められた基準を満たす場合に、地域活動や学校行事での活動を対象としプレゼンテーションを行い選考している。進級時の条件を満たすことにより3年間継続も可能となっている。その他にも指定校推薦入学では入学金の減免・選考料の免除、AO入学では選考料の免除を行っている。

評価基準7　学生の受け入れ募集

Ⅰ 募集の動き
Ⅱ 広報媒体
Ⅲ 募集体制
Ⅳ 学費

評価項目		学校自己評価			
		4･･･適切	3･･･ほぼ適切	2･･･やや不適切	1･･･不適切
1	学生募集活動は適正に行われているか	④	3	2	1
2	生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
3	学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1
4	体験入学会のメニューは本校の内容と合っているか	④	3	2	1
5	高等学校への直接訪問を行っているか	④	3	2	1

課題
①学生募集活動は適正に行われているか
③学納金は妥当なものとなっているか

今後の改善方策
①2023年度募集も平均値を維持できた。建築設計デザイン学科は新たな入試として建築士特待生推薦制度を設け入学者増につながった。2024年度は入試対策講座を周知して入学者を増やしていく計画である。また、高校学校での進路ガイダンスの予約の取得方法の変更やSNSを用いたジオターゲティング広告も継続する。

評価基準8　財務

文化デザイナー学院の財務状況は健全である。今後とも教育内容の情報提供や募集活動の強化により、安定した学校運営ができる募集人数の確保と、業務の効率化を図り、財務基盤の充実を図りたい。

評価基準8　財務

評価項目		学校自己評価			
		4･･･適切	3･･･ほぼ適切	2･･･やや不適切	1･･･不適切
1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
2	予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
3	財務について会計監査が適切に行われているか	④	3	2	1
4	財務情報公開の体制整備は出来ているか	④	3	2	1

課題
①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか

今後の改善方策
①2023年度は在校生数が200名を超え、本校の財政面は日々の経費削減と合わせて安定した1年であった。多くの学生を迎え入れたことで、中長期的な安定性がさらに向上した。また、2023年度募集は18歳人口が底となる。募集活動ではキャリアアップデザイン学科の入学生を迎え入れ新たな財源の確保ができた。運営面では経費削減と退学率の低減に努めていきたい。また、補助金などの公的な支援の活用にも取り組んでいきたい。

評価基準9　法令等の遵守

文化デザイナー学院における運営は、教育基本法に基づいた学則によって運営され、専門学校設置基準等あるいは該当する各法令に従い、種々の申請･届出･報告など諸手続をすみやかに実施している。

Ⅰ個人情報保護について

個人情報に関する書類に教職員全員が理解し確認のサインをする様に指導している。（書類の内容要約）

Ⅱ学校自己点検･自己評価について

日常の業務の中で気づかない点等を発見し、改善案を出し、実行し、かつそれをまたチェックする事で、学校の教育力や運営力の強化に繋がる事はすばらしいと感じている。平成13年から行っている授業の満足度調査によって授業そのものの質が自動的に底上げしてきた感が強い。このような、PDCAサイクルによるプラン作り･仕組み作りは、学校運営にとって大きなプラス効果として働いてくると思われる。

Ⅲ学生作品と著作権の問題

学生の作品は学生の著作物として扱われ、その扱いに関する企業や地方自治体等に説明をする義務が、学校の授業の一環で行っている以上発生するものとする。これらにおいて、トラブルや誤解が無いように細心の注意を払う事とする。

企業との連携事業を行う際には、必ず協定書を締結する事としており、学校は学生の学習効果を第一に考えなくてはならない。また、顧問弁護士の先生に依頼して、著作権の講義を平成29年2月20日に全学生を対象に行った際は、学生達がこれから考えなくてはならない法律の部分を学ぶ事が出来た。2023年6月19(月)に文化庁制作の著作権セミナーでオンライン学習を行い、AIと著作権の関係を中心に学んだ。このような機会は継続して設けていきたい。

評価基準９　法令等の遵守

Ⅰ 個人情報の保護

Ⅱ 学校自己点検・自己評価

Ⅲ 学生作品と著作権の問題

	評価項目	学校自己評価			
		4･･･適切	3･･･ほぼ適切	2･･･やや不適切	1･･･不適切
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
4	自己評価の結果を公開しているか	④	3	2	1
5	著作権について学生は理解しているか	4	③	2	1

課題
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
⑤著作権について学生は理解しているか

今後の改善方策
②メールサーバーの移行を行ったことにより、ホームページがSSL化した。体験入学会申込者等の外部の個人情報の保守性が高まった。
⑤2023年6月19(月)に文化庁制作の著作権セミナーでオンライン学習を行い、AIと著作権の関係を中心に学んだ。

評価基準10　社会貢献･地域貢献

Ⅰ企業･団体等連携課題の成果　作品/プレゼンテーション

本校における大きな特徴としては、平成7年度から、企業･団体等連携授業に力を入れており、授業の中に実際のクライアント（デザインの依頼人）を想定する授業に取り組んでいる。茨城県内の市町村や企業･団体などからのプロジェクトの依頼も多くなり、少しでも茨城県や地域の為に貢献出来ればと考えている。現在は1年生から3年生まで全ての学年で企業･団体等連携課題を実施している。これらは、本校の特徴である「職業実践主義」を貫く中心的な授業であり、デザインのプロセスである、取材（情報収集）→課題発見（現状把握）→解決（求められたアイデア）→企画（情報分析と仮説）→制作（デザイン力の高い）→表現（プレゼンテーション）を内包するものである。文化デザイナー学院は、職業教育としてこれらの6ステップに関わる知識･技術の習得に集中して力を注ぐ教育を目指している。

過去5年間における企業･団体等連携課題の取り組みを以下に列挙します。

Ⅱ企業･団体等連携課題等の一覧

G7茨城水戸内務･安全担当大臣会合キービジュアルデザイン　茨城県/2023
いきいきゆめ国体応援募金グッズデザイン
茨城県国体･障害者スポーツ大会局/2018
国体オリジナルラベルデザイン　水戸市/2018/2019
ブックカバーデザインコンテスト　株式会社ブックエース/2018
水戸黄門漫遊マラソンポスターデザイン　水戸市/2020/2021/2022/2023
水戸オーパクリスマスディスプレイデザイン
イオンモール株式会社水戸オーパ/2019/2020/2021/2022
ミトウチクリスマスツリーデザイン
イオンモール株式会社イオンモール水戸内原店/2023
コンクリートプランターデザイン
茨城県コンクリート製品協同組合/2020/2021/2022/2023
プチ･ソフィア家具デザイン　大子町図書館プチ･ソフィア/2023
イオンモール水戸内原ガーデンテラスデザイン
イオンモール株式会社イオンモール水戸内原店/2023
水戸まちなか大通りパークレットデザイン
水戸のまちなか大通り等魅力向上検討協議会/2023

ラフォーレ原宿 愛の狂気のマーケット出店
ラフォーレ原宿・クリファーム・ヤマチコーポレーション/2023
リメイク衣料販売 フクダ・クリファーム・水戸エクセル/2020/2021
水戸エクセルディスプレイデザイン 水戸エクセル/2020
Mito☆ファッションショー
水戸市/2013/2014/2015/2016/2017/2018/2019
水戸オーパファッションショー
イオンモール株式会社水戸オーパ/2018/2019/2020/2021/2022
イオンモール水戸内原ファッションショー
イオンモール株式会社イオンモール水戸内原店/2023
MitoriOフェスティバル MitoriOにぎわい推進協議会/2023
水戸京成百貨店ディスプレイデザイン
水戸京成百貨店/2013/2014/2015/2016/2017/2018/2019
七ツ洞公園パークウェディング 水戸市/2016/2017/2018/2019

生まれ変わる常陸大宮駅周辺のPRキャラクターの提案
医療法人博仁会志村大宮病院・NPO法人あきない組/2023
生まれ変わる常陸大宮駅前商店街の空間活用プロジェクト
医療法人博仁会志村大宮病院・NPO法人あきない組/2023
常陸大宮駅東口に街並みを活かした施設の提案
医療法人博仁会志村大宮病院・NPO法人あきない組/2023
天王崎エリアの立地や自然を楽しめる住居の提案 行方市/2023
天王崎周辺に湖畔を活かした魅力あるショップの計画 行方市/2023
天王崎エリアを中心とした行方市プロモーション企画 行方市/2023

水戸の梅染めプロモーションキャラクターの提案 水戸ユネスコ協会/2022
水戸の梅染めの魅力を伝えるプロモーションデザイン 水戸ユネスコ協会/2022
水戸ホーリーホックGRASS ROOTS FARMのプロモーション企画
水戸ホーリーホック/2022
那珂市「道の駅」周辺の価値を高める住宅 那珂市商工会/2022
那珂市「道の駅」の魅力を上げるショップ 那珂市商工会/2022
那珂市「道の駅」の計画 那珂市商工会/2022

阿字ヶ浦プロモーションキャラクターの提案

イバフォルニア・プロジェクト、ひたちなか市/2021
阿字ヶ浦の魅力を伝えるプロモーション企画
イバフォルニア・プロジェクト、ひたちなか市/2021
常陸大宮市交流のGatewayプロジェクト～シティプロモーションの提案～
常陸大宮市/2021
常陸大宮市交流のGatewayプロジェクト～住まいの提案～　常陸大宮市/2021
常陸大宮市交流のGatewayプロジェクト～ショップの提案～　常陸大宮市/2021
常陸大宮市交流のGatewayプロジェクト～魅力発信施設の提案～
常陸大宮市/2021
ファッションコーデPR作戦　ユーゴー・水戸オーパ/2021/2022/2023
ファッションデザインとディスプレイ計画　ユーゴー・水戸オーパ/2021/2022/2023
ファッションコーデショップ開店　ユーゴー・水戸オーパ/2021/2023

古内茶プロモーションキャラクターの提案　城里町/2020
古内茶の魅力を伝えるプロモーション企画　城里町/2020
水戸ワインプロモーション企画　鯉淵学園・ドメーヌ水戸株式会社/2020
線路沿いに立つ専用住宅の提案　JR東日本水戸支社/2020
水戸エクセル屋上に新たな施設の提案　水戸ステーション開発株式会社/2020
ファッションコーデPR作戦　ユーゴー・水戸オーパ/2020
ファッションデザインとディスプレイ計画　ユーゴー・水戸オーパ/2020
ファッションコーデショップ開店　ユーゴー・水戸オーパ/2020

那珂市ひまわりタクシー　PRキャラクターの提案　那珂市/2019
那珂市ひまわりタクシー　広報プロジェクト　那珂市/2019
まちなか・スポーツ・にぎわい広場（M-SPO）プロモーション企画
株式会社いばらきスポーツタウン・マネジメント/2019
まちなか・スポーツ・にぎわい広場（M-SPO）にある店舗併用住宅の計画
株式会社いばらきスポーツタウン・マネジメント/2019
スポーツショップ（ROBOTS）のある施設の提案
株式会社いばらきスポーツタウン・マネジメント/2019
鯉淵学園キャンパスリニューアル計画
公益財団法人農民教育協会　鯉淵学園農業栄養専門学校/2019
ファッションコーデPR作戦　ユーゴー・水戸オーパ/2019
ファッションデザインとディスプレイ計画　ユーゴー・水戸オーパ/2019

ファッションコーデショップ開店　ユーゴー・水戸オーパ/2019

東海高校ホッケー部 PRキャラクターの提案　東海村/2018
東海高校ホッケー部 応援プロジェクト　東海村/2018
ぶらり提灯 プロモーション企画　株式会社鈴木茂兵衛商店/2018
まちなかの商店街とともに過ごす住まいの提案　泉町仲通り商店会/2018
広場のあるショップの提案　泉町仲通り商店会/2018
商店街活性化計画　泉町仲通り商店会/2018
リユースファッションコーデPR作戦　ユーゴー・水戸オーパ/2018
リメイクファッションとディスプレイ計画　ユーゴー・水戸オーパ/2018
リユースファッションコーデショップ開店　ユーゴー・水戸オーパ/2018
森のシェーブル館 キャラクターの提案
一般財団法人水戸市農業公社/2017
森のシェーブル館 いいもの・・・いいところ発信プロジェクト
一般財団法人水戸市農業公社/2017
森のシェーブル館 再生計画　一般財団法人水戸市農業公社/2017
七ツ洞公園 イベントプロモーション エンジョイプラン
水戸市 都市計画部 公園緑地課/2017
公園とともに暮らす住まいの提案　水戸市 都市計画部 公園緑地課/2017
七ツ洞公園 パークセンターの提案　水戸市 都市計画部 公園緑地課/2017
リユースファッションコーデPR作戦　ユーゴー・水戸オーパ/2017
リメイクファッションとディスプレイ計画　ユーゴー・水戸オーパ/2017
リユースファッションコーデショップ開店　ユーゴー・水戸オーパ/2017
MITO世界チョコレートフェスティバル キャラクターの提案
MITO世界チョコレートフェスティバル実行員会/2016
フラワーバレンタイン花の魅力を伝える提案　いばらき花プロジェクト/2016
東海村発信（進）プロジェクト　東海村・東海村観光協会/2016
ふくまる ブランド米パッケージデザイン　茨城県食糧販売協同組合/2016
魅力ある住まいの提案　東海村・東海村観光協会/2016
国際交流センター阿漕ヶ浦公園交流スペース計画
東海村・東海村観光協会/2016
東海村風土体験型テーマパークプロジェクト　東海村・東海村観光協会/2016
ファッションコーデPR作戦　丸井/2016
リメイクファッションとディスプレイ計画　丸井/2016

ファッションコーデショップ開店　ユーゴー・丸井/2016
ガーデンデザイン　七ツ洞公園/2016

いばっピプロモーションキャラクターの提案　茨城交通株式会社/2015
水戸市集客キャンペーン企画　水戸市/2015
水戸の魅力発信を伝える提案　水戸市/2015
まちなかライフを楽しむ家族の住宅　水戸市/2015
リノベーションによるゲストハウスの計画　水戸市/2015
水戸の観光名所となるレストランの計画　水戸市/2015

茨城県ユーズドショップのファッションコーデPR作戦　ワンダーレックス/2015
リメイクファッションをディスプレイ計画　ワンダーレックス/2015
ファッションコーデショップ開店「水戸エクセルビル」　水戸ステーション開発/2015
恋のつぼみ　トマトパッケージデザイン　行方市/2015
水戸御当地アイドル（仮）衣装デザイン　アダストリア/2015
ブライダル模擬挙式　エイトプランニングオフィス/2015

陶芸のまちに住む若い家族の住宅　笠間市・笠間焼協同組合/2014
笠間市を体感できるカフェの計画　笠間市・佐白山のとうふ屋/2014
笠間市の魅力を発信する公共施設の計画　笠間市・笠間焼協同組合/2014
男女平等参画センターびよんどのシンボルマークの提案
水戸市役所男女平等参画センター/2014
笠間の陶炎祭キャンペーン企画　笠間市・笠間焼協同組合/2014
自分の見つけた小さな幸せ　茨城新聞社／茨城デザイン振興協議会
水戸芸術館／茨城県近代美術館
茨城県デザインセンター
NHK水戸放送局／いばキラTV/2014
茨城県ユーズドショップのファッションコーデPR作戦
水戸市　まちなか情報交流センター
ワンダーレックス/2014
リメイクファッションのディスプレイ計画
水戸市　まちなか情報交流センター
ワンダーレックス/2014
ファッションコーデショップ開店　水戸市　まちなか情報交流センター

ワンダーレックス/2014

血液センターオブジェプロジェクト　日本赤十字社/2014

中心市街地に建つ住宅　水戸市まちなか情報交流センター/2013

中心市街地の市民会館＆コンベンションセンター

水戸市泉町商業エリア活性化委員会/2013

中心市街地のファーマーズマーケット　水戸市まちなか情報交流センター/2013

茨城県ユーズドショップのファッションコーデ PR 作戦

ワンダーコーポレーション/2013

水戸市中心市街地にファッションコーデショップ開店

水戸市まちなか情報交流センター/2013

水戸市上市を統一するシンボルマークの提案

水戸歴史街道消費拡大グループ/2013

茨城の観光キャンペーン企画　JTB 関東/2013

西ノ内紙の可能性[Potential]　常陸大宮市西塩子回り舞台保存会/2013

「反射材付ファッション」開発コンテスト　茨城県警察本部交通企画課/2013

Wonder Rex 那珂店　ファッションコーディネートとディスプレイ

ワンダーコーポレーション/2013

ファイブリーグ　お弁当プロジェクト　茨城県歯科医師会/2013

伝えたい郷土行方の「ひとこころ読本」イラストレーション

行方市町長公室企画政策課/2013

評価基準10　社会貢献・地域貢献

Ⅰ 企業・団体等連携の成果

Ⅱ 企業・団体等連携の一覧

評価項目		学校自己評価			
		4・・・適切	3・・・ほぼ適切	2・・・やや不適切	1・・・不適切
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
2	学生の自由参加による社会貢献度の高い地域連携ボランティアを奨励、支援しているか	4	③	2	1
3	取り上げる「テーマ」は教育効果や地域への貢献度等の基本的要件を満たしているか	④	3	2	1
4	企業・団体等連携授業において、良い評価をいただいているか	④	3	2	1

課題
②学生の自由参加による社会貢献度の高い地域連携ボランティアを奨励、支援しているか
④企業・団体等連携授業において、良い評価をいただいているか

今後の改善方策
②水戸市教育委員会が主催する水戸市内の小中学生の学習プログラムである、次世代エキスパート事業へのボランティアに学生が参加した。修了制作で取り組んだ梅染めの課題の経験を活かし、染色体験やデザイン指導、発表指導のサポートを行った。
④修了制作で広告プロモーションデザイン学科1年生が常陸大宮市に提案した駅周辺のPRキャラクター制作では、好評をいただき工事用の案内看板として実用化された。

評価基準11　国際交流

Ⅰサンフランシスコ　Academy Art of University　との連携

平成4年（1992年）より平成22年（2010年）まで19回続いた国際交流プロジェクト。アメリカのサンフランシスコにある姉妹校Academy Art ofUniversityとのコラボレーションプロジェクトで、3日間にわたる交流イベントを毎年行っていた。本校もデザイン学校、相手もアートスクール（デザインも含む）ということで、アートイベントとして発展し、親善を含む国際交流ということで、サンフランシスコ市より正式に認定されていたイベントです。両校とも100名程の学生が参加し、総数200名程の学生を各校5名5名の10名前後でワークグループを作り、毎年異なるテーマでデザイン作品を共同作業で制作をしていくプロジェクトです。企画→制作→プレゼンテーションのプロセスを持ち、「ものづくり」を通したイベントとして最高のポテンシャルを持っている。

現在は、残念ながら2011年3月11日の東日本大震災により休止しております。

Ⅱ今後の国際交流について

今後は、サンフランシスコ以外に、国際交流の候補地として24年度は上海の学校を視察し、25年度はシンガポールの学校を訪問・視察した。現在、「アジアの熱風プロジェクト」としてアジア圏に注目しているが、特にシンガポールは治安も安定しており、ラサール大学など私立の大学に好感触を得ている。今後の展開により、プログラム化出来ればと検討している。

平成29年度は、デンマークにあるノーフェンスホイスコーレという、リリーこども＆スポーツ専門学校と長年にわたりセミナー交流のある学校に、コーディネートを依頼してスカンジナビアデザインホイスコーレとの共同プロジェクトを検討することになり、視察に行った。平成30年度には、オーストラリアのデザイン学校との交流についても検討した。2020年度以降は新型コロナウィルス感染症の世界的な流行の影響により保留としている。